

※結果分析(○できている ●できていない)
 〈学力調査〉

【国語】

- 県・全国の平均を上回った。
 「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」「読むこと」についての設問に対しては、とてもよくできていた。
 選択問題には、ほぼ回答できている。
- 「書くこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」についての設問(自分の考えをまとめて書く、既習の漢字の書き取り等)で課題が見られた。
 条件を上げることができていないため、言葉が少なかったり、文章がねじれたりしている。
 問題文が長いため、答える時間が足りなかったり、答えるポイントがズレていたりする。

【算数】

- 計算問題は、ほぼ解答できている。選択問題においても同じ。
- 県・全国の平均を下回る結果となった。
 文章で答える問題について無回答が見られた。特に「図形」「変化と関係」の分野では、面積を求める式を書く、言葉で説明する、速度の意味の理解して答えるといった設問で課題が見られた。

〈学習状況調査〉

- 学習への興味関心に対する項目では、肯定的な回答が多く見られ、日々意欲的に学習しようとする姿勢が見られている。
- 生活習慣・学習習慣、特に自己有用感が低い結果となった。

※学校としての対応・目標

- ・東っ子タイム等を活用し、基礎的な学習(漢字・言葉・計算等)のレベルアップを図る。
- ・正しい意味理解につながる授業(教材・教具・展開等)の工夫。
- ・授業の中で、自分の考えを説明・表現(図や文)する時間を確保する。
- ・自分の考えの発表や説明・振り返りを、条件(字数・キーワード等)に沿って行う(話す・書く)経験を増やす。
- ・他者を意識した発表の仕方を心がけさせる。
- ・日頃から文章を考えながら読む習慣をつけさせる。(わかっていることや尋ねられていること、大事な言葉をチェックしながら読む。)
- ・読書指導で、長文を読む経験を増やしていく。
- ・自分で考えて学習に取り組めるような家庭学習(自主学習など)の取組を行い、学級や学校行事等でしっかりと自己有用感を味わうことができるよう、さらに声かけ・支援を進めていく。
- ・メグビットやタブレットドリルによる復習、デジタル教科書を活用した予習的学習、ドキュメントやスライド(表現方法の工夫・)ロイロノートによる課題の設定等の工夫を行っていく。
- ・複式の授業でリーダー学習を取り入れ、主体的な態度・自己学習力の定着・児童相互の繋がりを図る。

以上のような学校の指導意図をご理解いただき、ご家庭でもご協力いただきますよう、

